

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

2023年 11月 1日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 工学研究科

職 名 助教

氏 名 高取 伸光

助成の種類	令和5年度・国際会議開催助成		
国際会議名	SWBSS ASIA 2023 (Salt Weathering of Buildings and Stone Sculptures ASIA 203)		
開催期間	2023年 9月 20日 ～ 2023年 9月 22日		
開催場所	奈良文化財研究所		
参加者	総数 53名	内訳 日本 17名、中国 18名、ドイツ 6名、ベルギー 3名、シンガポール2名、オーストラリア 2名、イタリア 2名、アメリカ 2名、デンマーク 1名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	事業に要した経費総額	2,962,161 円	
	うち当財団からの助成額	500,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 鹿島学術振興財団	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	招待者旅費・宿泊費	814,354	500,000
	会場・会議費	261,747	
	印刷製本費	265,000	
	通信運搬費用	347,600	
	謝金	158,000	
消耗品費、その他	185,006		
レセプション、エクスクーション費	930,454		
合 計	2,962,161	500,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

## 成果の概要

高取 伸光

2023年9月20日～22日の3日間にかけて、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所にて国際会議 SWBSS ASIA 2023 (Salt Weathering of Buildings and Stone Sculptures ASIA 2023)を開催した。

SWBSS は、2008年に始まった「Salt Weathering of Buildings and Stone Sculptures」に関する一連の会議であり、これまでコペンハーゲン（2008年）、リマソール（2011年）、ブリュッセル（2014年）、ポツダム（2017年）、デルフト（2021年）など主に欧州にて開催されてきた。この会議の目的は、保存修復家、技術者、建築家、学者、学生、経験豊かな研究者が一堂に会し、多孔質材料の塩類風化の分野における研究や開発の促進に貢献することである。アジア諸国で開催される会議シリーズとして SWBSS ASIA の構想が 2017年にポツダムで提案され、その最初の会議である SWBSS ASIA 2023 が 2021年にデルフトで開催されることが発表され、今回の会議の開催につながったという経緯である。本会議は当初対面での開催を予定していた。ただし、近年の COVID-19 に伴う世界情勢の影響により、渡航や直接参加に制約を受ける国があることから、原則対面での参加とするもののオンラインでの発表、公聴が可能なハイブリット形式での開催とした。最終的には 9 か国から合計 53 名の参加者が集い、大変盛況な会議となった。参加者の内訳は、日本 17 名、中国 18 名、ドイツ 6 名、ベルギー 3 名、シンガポール 2 名、オーストラリア 2 名、イタリア 2 名、アメリカ 2 名、デンマーク 1 名であった。

9月20日は奈良文化財研究所所長の本中眞氏および奈良県の森井順之氏による開会の挨拶に引き続き、ハンブルク大学の Michael Steiger 教授により”Soluble salts in building materials: From sampling to interpretation”という演題で 50 分の基調講演が行われた。その後、会議参加者による 20 分の口頭発表が計 14 件行われ、活発な議論が行われた。9月21日は前日に引き続き約 2 時間のポスターセッションが行われた。ポスターセッションでは 11 件の発表があり、活発な議論が行われた。また、午後からはエクスカージョンを実施し、我が国の伝統的な文化財建造物である聖徳宗総本山 法隆寺ならびに装飾文化財の修復作業現場を見ることのできるなら歴史芸術文化村の見学を行った。エクスカージョンの参加者は 28 名であった。その後、研究者間の親睦を深めるため、カフェ・葉風泰夢（奈良県奈良市）にてバンケットが行われた。9月22日は上海大学の Luo Hongjie 教授により”The migration and crystallization behavior of salt solution in traditional inorganic porous materials”という演題で 50 分の基調講演が行われた。続いて、会議参加者による 20 分の口頭発表が計 13 件行われ、活発な議論が行われた。その後、閉会の挨拶が行われ、2027年に Luo Hongjie 教授の所属する上海大学にて次回の SWBSS ASIA が開催されることが発表された。本会議において提出されたプロシーディングスは合計 38 件であり、”Proceedings of SWBSS ASIA

2023”というタイトルで出版を行い、会議参加者には製本版が配布された。本書籍の ISBN は 978-4-600-01329-5 である。今回の会議で発表された研究のテーマは、複合塩による劣化挙動の予測や塩の結晶化に伴う多孔質材料の耐久性予測、多孔質材料中における塩溶液の移動性状の把握など、理論あるいは実験に基づいた研究や、各国の文化財建造物における塩類風化事例の紹介といった各国の環境条件に合わせた事例紹介や、環境制御や脱塩による塩類風化の抑制方法に関する研究など、幅広い分野にわたる研究成果発表が行われた。

COVID-19 の影響によりここ数年国際的な人の往来が制限されていた中、本会議を概ね対面で実施できたこと、また欧州による開催が中心であった本会議をアジアにて初めて開催できたことは特筆に値するものと考えられる。対面ならではの密な議論ができたことは言わずもがな、コーヒブレイクやランチブレイク、バンケットなどリラックスした場を提供したことで、参加者間の交流が深まったものと考えられる。今回の国際会議はこれらの活動を通じて、塩類風化研究のさらなる発展と、アジア各国を中心とした国際的なコミュニティの形成につながったものと考えられ、本会議の目的は十二分に達成できたものと考えられる。